



たった一人のためにでも、世界をつなげたい。

CWS JAPAN

Church World Service

NEWSLETTER No. 47



2020年8月発行

令和2年7月豪雨被災地支援を実施しています

日本付近に停滞していた梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んでいる影響により、2020年7月3日以降、九州をはじめ西日本と東日本の広い範囲で記録的な豪雨をもたらした甚大な被害がでました。

[熊本県災害対策本部](#)によると、8月6日時点で当豪雨による死者数65名が確認されており、住家被害の状況としては全半壊600棟程度、床上浸水が5,700棟以上となっていることが分かっています。そのなかでも人吉市での被害は、死者数20名、床上浸水3,775棟で、未だ631名が避難しています。

上記の被災状況をうけて、豪雨災害で被害が大きかった熊本県人吉市を中心に熊本YWCAを通して2カ月間の緊急支援を行うことになりました。

熊本YWCAは、CWS Japanが事務局を担うACT Japan Forumメンバーである日本YWCAの加盟団体であり、この度、発災直後から、すぐに連絡し、緊急支援の連携協力について話し合いを進めることができました。今年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、県外の支援団体・ボランティアの立ち入りを制限しているため、このように地元で動けるパートナー団体がいることを大変心強く思っています（ACT Japan Forumを通じた詳細な支援内容は[こちら](#)）。

現在、被災者宅の生活復旧作業が始まっていますが、それを担う人手不足が深刻です。地区全戸が全壊被害となった人吉市大柿地区では、汚泥の浸入だけではなく、丸太や瓦礫により家屋が傾いたり、1階部分の窓が全壊し、家の中の物が全て流された世帯が多く見られます。

(次頁へつづく)

(被災した大柿地区の様子)



いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、ご理解をいただき、ありがとうございます。

Facebook
twitter
instagramでも
情報発信しています！

最後のページを
ご確認ください☐

特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

✉ public@cwsjapan.jp
☎ 03-6457-6840

自宅周辺の汚泥の中から家財道具や思い出の品などの発掘や瓦礫などの運び出しなどを行う住民に対し、片付け作業に必要な物資(着替え、長手袋、水分、タオル、雑巾、下着、靴下など)を支援しました。「足に力が入らなくなった。自分が無理をしていたし辛いということが分かった」「手伝いに来てくれる方がいて助かった」という話をしてくださる住民の方々もいらっしゃいます。



(被災した大柿地区の様子)

熊本YWCAスタッフ自身の熊本地震での被災経験を話し、災害は「一人で太刀打ちできるものではないので、遠慮なくボランティアを使って欲しい」と話したり、焼酎の熱燗をつくる食器や焼酎のコップなどが出てきて、それを洗いながら、もう少し片付いたら月見をしながらお酒を飲もうという話をするたびに、涙を見せられる方もいらっしゃいました。

従来は、全国に向けてボランティア募集を呼びかけておりましたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響を考え、熊本県在住の方々に限定してお声かけさせていただいております。ご協力頂ける方は、ぜひACT Japan Forum事務局 (general@ncc-j.org) または public@cwsjapan.jp までご連絡頂ければ幸いです。

(文：プログラム・オフィサー 西澤紫乃)

スフィア研修(オンライン)を行いました

「スフィア基準(スタンダード)」という言葉聞いたことがありますか？

8月19日と26日に災害支援や難民支援を専門に行うNGO職員を対象として、人道支援の国際基準であるスフィア研修がオンラインで開催され、CWS Japanの五十嵐豪が講師として登壇しました。

スフィアは特に災害時の避難所運営の指針として、近年では日本のメディアでも紹介される機会が多くなりました。しかし、その使い方として誤った理解をしている場合が多くみられます。

例えば「避難所の1人あたりに必要なスペースとして3.5平米が必要だとスフィア基準として定められている」と説明される場合があります。しかし、この理解は誤りです。具体的な数字はとてもわかりやすいのですが、「数字」は目安にはなっても基準にはなりません。



(被災された方の家屋の様子)

8月上旬からボランティア急募の呼びかけを始め、一度に十数名のボランティアの方々支援活動に参加される日もありますが、これからもまだまだ継続的なボランティアのご協力が必要です。

確かに「数字」は避難計画など立てる際には役に立ちます。しかし、実際の支援の現場において「数字」にばかり囚われてしまうと、被災者一人ひとりの人間性を軽視してしまう可能性があります。

小さな乳幼児から、介護ベットや車いすが必要な障害者や高齢者まで、画一的に3.5平米というスペースが必要、または十分であるとは言えません。3.5平米という数字を見るだけで、個性ある多様な人びとが直面する課題の全てを解決することは不可能です。

被災者のプライバシーを守る仕切りや、感染症を予防する換気なども同様に大切であるとスフィアには書かれていますが、その部分が注目される機会は多くありません。

難しい課題ですが、専門性の高い支援というのは、被災者の一人ひとりの人間性を尊重する支援です。

CWS Japanは、より質の高い人道支援を被災者に届けるために、スフィアをはじめとした国際基準を正しく理解し、自らの活動において遵守するだけでなく、広く支援団体や関係者にも伝わるようにアドボカシーや研修を通じてその普及啓発にも努めています。

スフィアについてより深く知りたい方は、CWS Japanが幹事を務める「[支援の質とアカウントビリティ向上ネットワーク \(JQAN\)](#)」のホームページもご参照ください。

(文：プログラム・マネージャー

五十嵐豪)



(スフィア研修で使用する「何もないよりマシでしょ？」という支援する側の態度が表れているイラスト。被災者は「被災者」である前に「尊厳ある人間」なのです。)



CWSJapan



@Japan_CWS



cws_japan

日々の活動や事業の詳細や支援先の様子などを写真(ときどき動画)でお伝えしています！